

「板橋区観光振興ビジョン2035」の策定方針について

1 趣旨・目的

- 板橋区では平成29年（2017年）4月に、板橋区の観光振興を「文化」と「心」を基調とした観光まちづくりと位置付け、五つの目標と三つの視点を掲げ「板橋区観光振興ビジョン2025」を策定し、現在まで取り組んできたところである。
- 現在、国では観光立国推進基本計画の中で、観光の質的向上を象徴する「持続可能な観光」をキーワードの1つに掲げており、国際的にも「持続可能な観光」への関心・意識が高まる中、地域の経済・社会・環境への好循環を加速化させる持続可能性の仕組みや価値を確立し、発信していく必要性が高まっている。
- 板橋区としては、こうした社会動向の変化に対応していくために、絵本のまちを始めとした板橋区の独自の魅力を観光資源として活用していくとともに、文化・歴史・産業・まちづくり等のサステナブルな観光コンテンツを通じてSDGsの展開を図っていくことが必要になっている。
- そこで、令和8年度（2026年度）に新たな観光振興ビジョン策定のための検討組織を立ち上げ、“魅力あるいたばし”を国内外に発信していくためのビジョンを策定する。

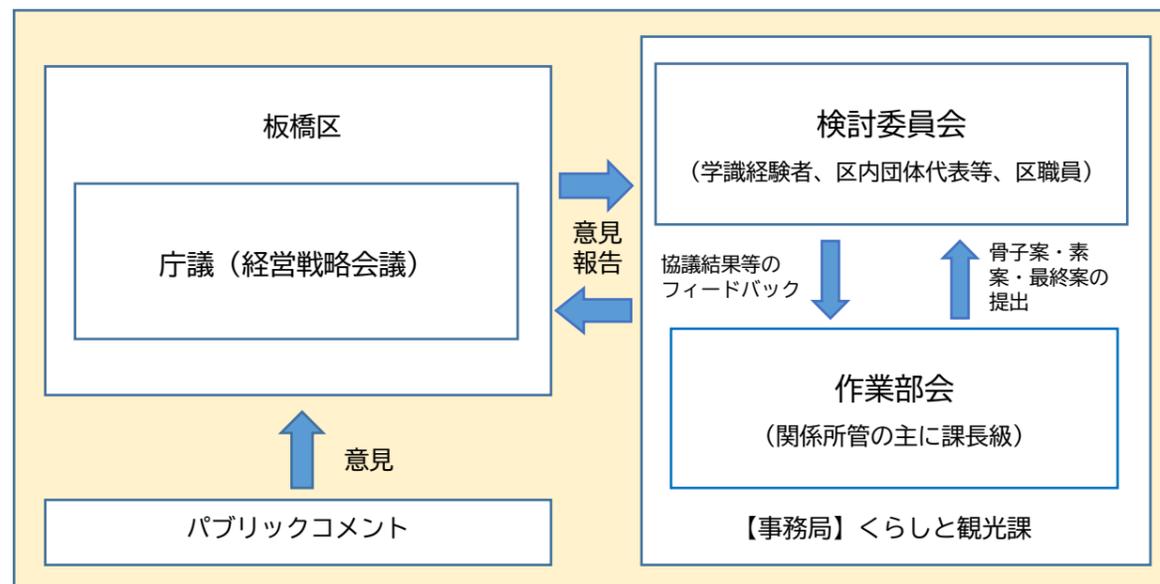
2 計画期間

計画策定後から令和17年度（2035年度）まで

3 ビジョン策定にあたり調査・検討する内容

- (1) 観光の動向と本区の特長・課題
 - ・観光をとりまく動向
 - ・観光振興の取り組み状況
 - ・本区の特長と課題
- (2) ビジョン推進のために
 - ・ビジョン推進に向けた体制（観光センターのあり方・ボランティアの育成）
 - ・区内にある様々な魅力ある既存資源の調査・整理
 - ・新たな観光資源の創造
 - ・効果的な観光プロモーションの施策

4 検討体制



5 ビジョン策定の視点

板橋区観光振興ビジョン2035で重視する視点

【歴史・文化・自然】

- ①史跡公園、植村冒険館、こども動物園など、加賀を中心とする歴史・文化・自然を結びつけた観光資源の創出と活用
- ②河川敷を中心とした河川空間とスポーツや音楽イベントを組み合わせるなど、複合的視点を用いた観光コンテンツの創造とにぎわいの創出
- ③産業ミュージアム、史跡公園、あずさわスポーツフィールド、高島平プロムナードなど文化・産業・スポーツ・緑・イベントをつなぐ、独自の新しい観光フィールドの創出

【まちづくり】

- ④板橋駅周辺、大山駅周辺、上板橋駅周辺、高島平地区など、まちづくりと観光の融合による観光資源の創出

【魅力発信】

- ⑤美しく臨場感ある写真とストーリー性を持たせた文章による、効果的なプロモーションの向上

【人材】

- ⑥来訪者向けのガイドツールの活用や専門的な知識を持った観光ボランティアの育成など、新たな担い手による魅力発信の強化

【地域】

- ⑦東上線・三田線駅前商店街の商業文化と川越街道・中山道の街道文化を結びつけ、地域コミュニティを活かした地域ブランドの創出

板橋区観光振興ビジョン2025の視点

磨く	創る	伝える
暮らしの身近にある、板橋ならではの「自然」・「文化」・「食」などの魅力に磨きをかけ、新たな発見・感動のある体験を通じ、区民の地域に対する愛着や誇りの情勢に繋げていきます。	現在の板橋を創る観光資源と新たなまちの記憶として魅せる観光体験を積極展開し、訪れる人に感動を与え、魅力あふれるまちのアピールにつながる観光戦略を展開します。	区の魅力を広く発信し、国内外から多くの人を呼び込むとともに、暮らしに密着した体験の機会を提供し、もう少し居たいと思わせる、どこか懐かしさの残るまちを伝えることに重点を置いた観光施策を展開します。

6 今後の主なスケジュール

- 令和6年8月 庁議（経営戦略会議）、区民環境委員会報告
- 令和7年1月 庁議（経営戦略会議）骨子案
- 8月～9月 庁議（経営戦略会議）素案、区民環境委員会報告
- 10月～11月 パブリックコメント
- 11月～12月 庁議（経営戦略会議）最終案、区民環境委員会報告

※この間、検討委員会、作業部会を実施予定。